

平成 21 年1月 14 日

## 日本オーディオ協会新春のつどいご挨拶

社団法人 日本オーディオ協会  
会長 校條 亮治

1月も早、半分が過ぎましたが改めまして明けましておめでとうございます。

昨年は本当に皆様にお世話になり心から御礼を申し上げます。本日は景気問題、国会対策とお忙しいにもかかわらず私どもの年賀会に経済産業省より住田課長様、梅沢審議官様、宮崎係長様のご出席を戴き厚く御礼を申し上げます。

特に昨年来の金融危機では多大なご指導とご支援を戴き、この場を借りまして深く感謝を申し上げます。また多くの関係団体、機関の皆様方、会員の皆様にもご出席を戴き、重ねまして御礼を申し上げます。

さて、今年の幕開けとなる各関連団体や機関の年賀会に、私も出席をさせていただきましたが、どこも昨年来の金融危機と、世界同時不況の話が季語のように語られており、いささか皆様も辟易とされているのではないかと思うところがあります。特に世界同時不況の波が、ついに実業の世界である国内関係業界にも押し寄せてきていることが、深刻な状況として情報交換されていたのが特徴であり、それだけ厳しいということであると認識するところがあります。

年頭に当りまして、私は少し視点を変えて物事を考えてみたいと思うところがあります。現在の状況は厳しいことではありますが、ある意味では「成るべくしてなった」としか思えないことでもあります。

私も永い間、実業の世界、特に技術をベースにした製造業にいたからかも知れませんが、金融工学やら、行き過ぎたマネー主義に踊らされて結果的におきたことであり、悪く言えばエンロン事件からの一種の詐欺的状況ではないかとも思えるのであります。先日もある新聞の特集に「ピーター・ドラッカー」と「ケインズ」がいたらという、今日の状況おける解釈論が二人の哲学者と経済学者によってなされておりました。

いずれの論も「人間」が基本であることと「本質」を見ることの重要性が述べられておりました。私は、実は「経営革新」を「経営品質」という考え方で担当しておりましたので、全く当を得た論であると再認識をしたところがあります。

そこで此処からは、かなり我田引水ではありますが今までが異常であり、これからは「普通のこと」、あるいは「あるべき姿」になるだけであると認識すれば、私たちの対応すべきことは、自ずと見えてくるものであると考えているところがあります。

厳しいからといって恐れおののくのではなく、そこに「人間」がいる以上、私たちの活動や経済的営みも、必ず必要であると信念を持って前へ進むことが重要ではないかと思う次第であります。それも「本質」をはずさないで「こと」に当るべきではないかと思っております。

当協会も新しい「ビジョン」を策定し、来る総会に諮る準備をしているところがあります。こんなときこそ素晴らしい「音楽」や「映像」による「感性を磨く」事が日本の行くべき道に沿うのではないかと思う次第

第であります。まさに経済産業省様が掲げられている「感性品質イニシアティブ 21」の実現であります。是非、経済産業省様には「オーディオ & ビジュアル」の世界をイニシアティブ 21 に加えて頂きたいと思うところであります。感性品質も地球的規模の環境問題も同質であろうと思っております。今年は「本物の感性を」を合言葉に協会運営を推進してまいりたいと考えているところであります。

さしあたり、2月の「A&Vフェスタ2009」は完成品ではありませんが、このような考え方も取り入れた新しい試みも組んでみました。是非とも皆様のご支援の下に成功できますよう心からお願い申し上げますと共に、本日お集まりの皆様のご健勝とご繁栄を心からご祈念申し上げまして、私の年頭挨拶に代えさせていただきます。本日は本当に有難うございました。